

平成28年度 授業改善推進プラン

・関係法規
・教育基本法
・都、区教育目標

教育目標
○自主…自分で考え、判断し、行動できる人
○勤勉…何事にもまじめで一生涯懸命取り組む人
○共生…互いの違いを認め、助け合って生きることのできる

・学校、地域の実態
・保護者や地域の願い
・期待される生徒像

学校経営方針（学力向上にかかわる要点）

☆＜指導と評価の一体化＞授業アンケートや各種調査結果をもとに自己申告書を作成し、質の高い指導と生徒を伸ばす評価の工夫・改善を行う。
☆＜学習環境の整備＞ フリースペースの展示物を充実させ、落ち着いたある学習環境を整え、学習確認の場として活用する。
☆＜家庭学習の習慣化＞ 家庭学習の習慣化を図るために、学級活動において「学習の記録」を記入させ、家庭での学習時間の管理を行う。

各教科の指導の重点を確実に生徒に身に付けさせるため次の取組を行います

道徳教育の指導の重点	教科	取組内容	生活指導の重点
<p>道徳の時間の指導を充実させると共に全教育活動を通して社会体験やボランティア活動、自然体験活動等、体験を重視した、教育を推進する。</p> <p>①望ましい生活習慣を身につけ、自立的に行動する態度を育てる。</p> <p>②豊かな情操と自律的で思いやりのある態度を育てる。</p> <p>③生命の尊さや意義を理解し、自然の生命を尊重する態度を育てる。</p> <p>④勤労の貴さや意義を理解し、奉仕の精神をもって社会の発展に努める態度を育てる。</p> <p>⑤豊かな体験を通し道徳的心情と道徳的判断力を育てる。</p>	国語	<ul style="list-style-type: none"> 言語事項においては、漢字の読み書き、文法事項など、授業中の取り組みや宿題で反復練習をさせ、定着を図る。 スピーチの時間を設定し、自らの考えや意見を発表させると共に、相互評価を行い、自分の考えを深められるようにする。また、構成や内容に着目し、主張が明確に伝わるような文章を書く練習をさせる。 	<p>①互いに尊重し、協調し合う態度、規律を重んじる態度の育成を図り、将来社会生活での自己実現ができる生徒を育成する。</p> <p>②生徒一人一人の良さを生かし伸ばすため、スクールカウンセラーと協力し、個に応じた指導や教育相談活動を充実させる。また、地域・家庭・関係諸機関との連携を深め、いじめや不登校生徒の対応を含め、生徒の健全育成を全校体制で組織的に推進する。</p> <p>③地域・家庭・関係諸機関の協力のもと、登下校時を含めた学校の危機管理体制を整備し安心・安全な学校作りを推進する。</p>
	社会	<ul style="list-style-type: none"> 応用力が不足している。特に一つ一つの知識が他の知識と関連付けできない。レポート作成などの作業を課題として取り組ませ、知識を体系の中で位置付けさせる。 	
	数学	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算技能の習得については、既習事項の復習を繰り返し行い、スパイラルな学習を継続していくことで定着を図る。 思考力・表現力を養うための課題を用意し、筋道を立てて考えることや自分の考えをわかりやすく説明することを、授業の中で多く体験させるようにする。 	
	理科	<ul style="list-style-type: none"> 生徒にとってイメージし難い学習内容では、視覚教材やモデルなどを用いて具体的にわかりやすく説明をし、ワークシートなどや板書の工夫をして学習内容を整理し、理解しやすいうように授業を行う。 基礎的・基本的な学習内容をくり返し学習をし、その後小テスト・単元テストなどを計画的に実施し、基礎基本の定着を図る。 観察、実験の考察は、日常生活と関連した設問を用意し考えさせる。班内での意見交換や発表などの場面をつくり、表現力・思考力の向上を図る。 	
	音楽	<ul style="list-style-type: none"> 表現を工夫したり音楽の特徴やよさなどを感じ取ったりする場面で、ペア学習やグループ学習を活用し、協働的な学習を展開する。 目標、学習内容を、板書や視聴覚機器の利用で視覚化し、学習の定着を図る。 生徒の表現の技能やワークシートへの記入状況等をチェックし、指導が必要な生徒には個別に指導して、表現力の向上と基礎的な知識の定着を図る。 	
	美術	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した領域に偏りのない題材設定で、基礎的な表現力を高めていく。 学年進行とともに、題材を基礎的な内容から専門的な内容へと深めていく。 見通しをもって題材に取り組めるように、進行状況の分かるワークシートを活用する。 自分らしく表現することで、表現活動の喜びを感じ取らせる。 	
	保体	<ul style="list-style-type: none"> 各種目における特性やルールを理解や基本的技能の習得、運動量の確保を重視して体力の向上を目指して授業を進めていく。 生徒の実態に応じての、活動内容や活動形態の工夫を行い、意欲的に授業に取り組むとともに運動することの楽しさを感じさせる。また、課題にあった効果的な教材、教具を取り入れていながら安全に活動を行う。 学習カードや視聴覚教材を用いて、知識の定着や理解の向上を図る。 	
	技術	<ul style="list-style-type: none"> 常に生活に密着した教材を考え、生活に役立つ技能の定着と実生活を工夫・改善する能力を育成する。 作品の全員完成を目標にし、作品や学習成果を発表する場を設け、技術・家庭に対する興味・関心を高める。 	
	家庭	<ul style="list-style-type: none"> 教科書本文の暗写を全生徒が取り組むように指導するだけでなく、学習した表現を用いた自己表現にまで達するように日頃の授業で取り組んでいきたい。また、「読む力」については、教科書の文章を基礎として、長文の大意を掴んだ上で細部の理解を深めていくトップダウン方式で授業の充実を図っていく。 	
	英語	<ul style="list-style-type: none"> 教科書本文の暗写を全生徒が取り組むように指導するだけでなく、学習した表現を用いた自己表現にまで達するように日頃の授業で取り組んでいきたい。また、「読む力」については、教科書の文章を基礎として、長文の大意を掴んだ上で細部の理解を深めていくトップダウン方式で授業の充実を図っていく。 	
総合的な学習の時間の重点			<p>①自己を理解しさらに自分の個性を伸ばしながら、現在及び将来にわたって自己実現できるように、自分の生き方を探求する心を育てる。</p> <p>②職業調べ、職場体験、上級学校訪問等を通して望ましい勤労観、職業観を育み、主体的に進路を選択する能力や態度を育てる。</p> <p>③進路選択に関わる情報の収集・提供を計画的・組織的に行い、その情報が十分に理解、活用されるように工夫する。</p>

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導方法・指導体制の工夫	評価活動の工夫	校内における研究や研修の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ○少人数指導の更なる充実 ☆定期考査前1週間の朝学習実施 ▲基礎学力の定着と学力向上 ○行事の精選による授業時数確保 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学力調査の結果分析を確実に実施することと弱点克服のための指導の工夫 ▲家庭学習の習慣化 ▲ICTの効果的な活用 ○各種検定受検の推進 ○授業規律の徹底 ○授業時数の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ○評価・評定に関する校内規準の共通理解 ○評価方法について、生徒・保護者への分かりやすい説明 ○生徒による授業評価実施 ☆通知表のフォーム改善 	<ul style="list-style-type: none"> ○アカデミーの研究主題「自ら考え、表現し、伝えあう子供の育成」を踏まえた各教科・道徳・特別活動の指導の充実 ☆校務支援システムの理解徹底へ向けた研修の充実 ☆ハイパーQ Uの効果的な活用を考える研修の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評議員会の有効活用 ○家庭や地域への積極的な情報提供及び相互理解 ○外部評価の活用